

第3回 SPARC Japan セミナー2019

「実践 研究データ管理」

開会挨拶 / 概要説明

林 賢紀

(国際農林水産業研究センター)



林 賢紀

国立研究開発法人国際農林水産業研究センター企画連携部情報広報室情報管理科。2014年4月より現職。博士（情報学）。図書館や公式Webサイトの運営管理、データベースの構築支援など、研究情報の収集及び発信に携わっている。



当セミナーの企画概要

今日のテーマは「実践 研究データ管理」です。オープンサイエンスを実現するための基盤として、研究データの保管や公開を中心に適切な管理が必要不可欠です。しかし、いろいろなところから研究データを保管しなさいといわれ、その必要性は分かっても、具体的にどのように行っていくのかを知る機会は少なく、情報もあまりないところかと思います。研究者が研究を通じて生み出したデータを提供するわけですが、一方で、その管理の実務を誰がするのか、例えば大学であれば研究支援職員や、またこれからの図書館員の役割の中に研究データ管理が入っていくといわれています。しかし、私もそうですが、正直、「明日から研究データの管理をしよう」といわれても、そもそも研究データには何があって、何を管理して、どうやって目録を取ればいいのかも分からないというところなんです。

今日のセミナーでは、研究データの管理を日々実践しているリポジトリや図書館の実例、あるいは、これからポリシーを考えなくてはいけないので、どうやって扱うかを考えてみたという事例を発表していただき

ます。また、研究データ管理を支援するためのツールは、国立情報学研究所（NII）でも開発が進んでいます。こういうツールを使うことで、より簡便に、より手軽にできるという話題や、われわれは何を学習して、何を進めていけばいいのか、どういう人がいれば研究データの管理が回っていくのかという人材育成の取り組みに関しても発表いただく予定です。

その後、パネルディスカッションにおいて、研究データ管理に係る研究者、研究支援の職員、図書館の役割、あるいはその役割を超えたところにある共有すべきものは一体何かというような理念やリテラシーを議論できればと考えています。

今日は研究者や大学の職員、あるいは図書館員などいろいろな方がお集まりです。皆さまが、今日のセミナーが終わったときに、「じゃあ、こんなことができるのではないか」「自分はこれができるのではないか」とイメージできるようなセミナーを予定しています。